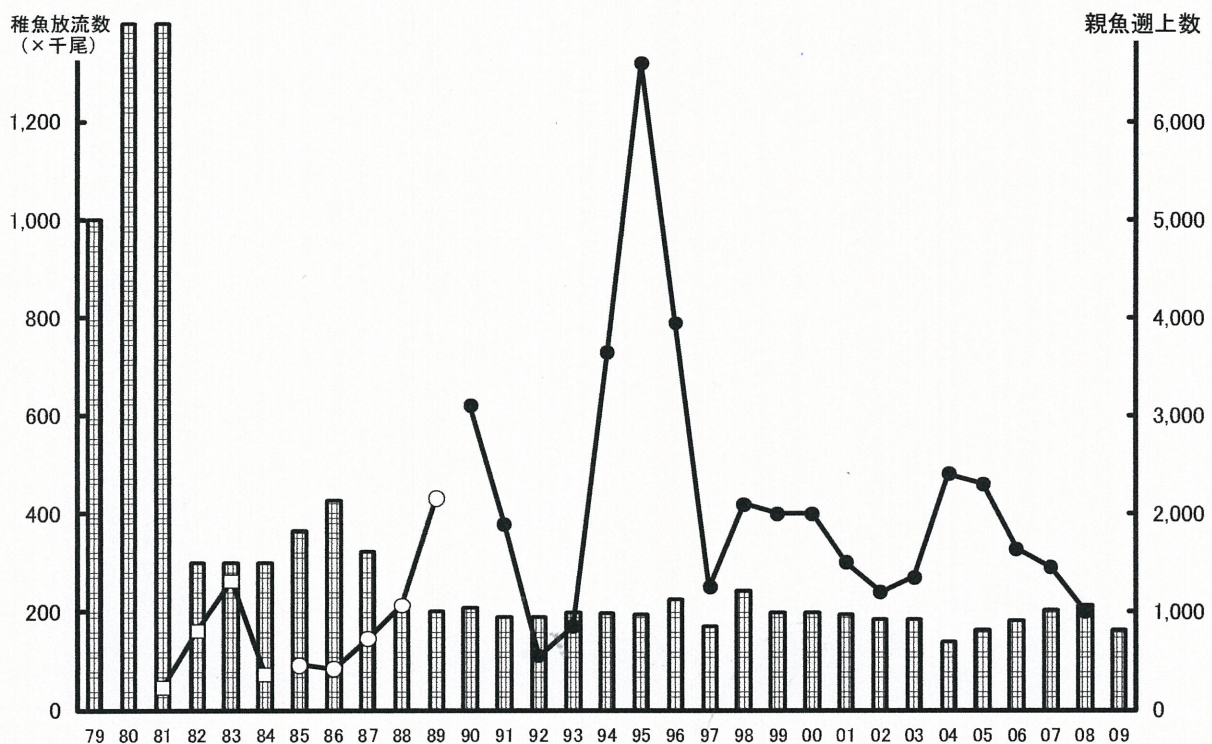


豊平川におけるサケの稚魚放流数と親魚遡上数(1979年以降)

西暦年	稚魚放流数	産卵床 確認数	親魚遡上数	西暦年	稚魚放流数	産卵床 確認数	親魚遡上数
1979	1,000,000	—	—	1995	194,000	3,221	約 6,600
1980	1,400,000	—	—	1996	226,000	1,907	約 3,950
1981	1,400,000	—	223	1997	170,000	605	約 1,250
1982	300,000	—	806	1998	241,000	1,045	約 2,100
1983	300,000	—	1,316	1999	198,000	989	約 2,000
1984	300,000	—	355	2000	198,000	997	約 2,000
1985	364,000	259	460	2001	193,000	759	約 1,500
1986	427,000	202	420	2002	185,000	587	約 1,200
1987	322,300	261	726	2003	185,000	685	約 1,350
1988	204,000	402	1,065	2004	138,300	1,188	約 2,400
1989	201,000	789	2,155	2005	163,000	1,144	約 2,300
1990	208,000	1,499	約 3,100	2006	182,600	815	約 1,640
1991	189,000	857	1,889	2007	202,700	718	約 1,450
1992	188,000	230	約 550	2008	213,500	494	約 1,000
1993	198,000	354	約 850	2009	161,700		
1994	195,000	1,758	約 3,650				



豊平川の親ザケの^{かいきすう}回帰数については、次のような方法で調べられています。
 1984年以前：^{うおどさく}魚止め柵を川につくり、^{そじょう}遡上してきた親ザケを捕獲しました。
 1985～1989年：^{あみ}網を使って、産卵場所などでできるだけたくさんの親ザケを捕獲しました。
 1990年～現在：^{さんらんしょう}産卵床(産卵場所)の数を調査し、そこから計算で求めました。

近年のサケ稚魚の放流数は毎年約20万尾程度です。自然産卵から生まれた稚魚も、それ以上の数が降海していると考えられます。

親ザケの遡上数は多い年と少ない年の差が大きいです。これは海の水温やエサなど、サケにとっての環境に変動があることがおもな原因と考えられています。